

第 9 章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高 9 ～ 10 m 前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 500 m、東西 600 m 以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の 250 m 南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約 350m の比高差 9 m を持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978 年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより 2021 年 4 月現在約 160 地点で試掘および調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西 240m、南北 210m 程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

第 25 表 松山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3 ～ 11) 2014.3.13 ～ 26	493	(95) 22.8	個人住宅	古代住居跡 1、土坑、墨書土器、土師器等		市内 18
78	松山 2-5-5	(2014.5.22)	242	(35.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	(36)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183.4	(90)	個人住宅	遺構なし、焙烙等		市内 20
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247.49	(74.3)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 20
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	(35)	個人住宅	堀跡、縄文土器		市内 22
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	(6)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	(190)	宅地造成	古代住居跡 1、井戸、縄文土器等		市内 22
85	池上 362-1 の一部、 364・365・366 の一部	(2015.10.1 ～ 19) 2015.10.20 ～ 26	1,244.47	(485.6) 93	分譲住宅	古代住居跡 2、焼土、溝、須恵器等		市内 19
86	築地 1-1-4	(2016.7.5・7)	294	(37.9)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内 24
87	築地 3-1-21・22 の一部、 39・40・41・84	(2016.9.14)	427	(29.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
88	築地 1-3-36	(2016.10.13)	120	(18.8)	個人住宅	土坑、ビット、溝、遺物なし		市内 24
89	築地 2-1-11・16	(2017.3.3 ～ 6)	287.04	(89.3)	分譲住宅	遺構なし、須恵器		市内 24
90	仲 1-1-37 の一部	(2017.10.12)	120	(12)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
91	築地 1-3-8 の一部	(2017.10.24)	416	(51.75)	個人住宅	溝、陶器等		市内 24
92	築地 3-4-3	(2017.10.30・31)	621	(177.75)	分譲住宅	土坑、ビット、縄文土器		市内 24
93	築地 3-5-72	(2017.11.27・28)	571.97	(114.35)	共同住宅	古代住居跡 2、土坑、堀跡、溝、墨書土器、土師器等		市内 24
94	築地 3-5-4	(2018.3.23)	1,508	(17.25)	作業場	古代住居跡 1、ビット、土師器等		市内 24
95	松山 2-1-12	(2018.8.1・2、9.13)	353	(38.96)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
96	仲 1-1-34	(2018.8.20)	165.43	(31.95)	分譲住宅	堀跡、遺物なし		市内 25
97	築地 3-1-5・7 の各一部	(2018.10.30)	253	(61.93)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
98	松山 2-2-4	(2018.11.1)	1,291.34	(54.46)	店舗	遺構なし、須恵器		市内 25
99	仲 2-4-2	(2019.1.11 ～ 15) 2019.1.21・22	673.35	(201.25) 33.8	分譲住宅	堀状遺構、陶磁器等		市内 23
100	築地 3-1-5 の一部	(2019.8.8) 2019.8.9 ～ 23	327	(21) 45	個人住宅	古代住居跡 1、土師器等		市内 25
101	仲 1-2-52・54	(2019.10.30 ～ 11.1)	1,219	(222)	分譲住宅	土坑、溝、遺物なし		市内 25
102	築地 2-3-14・15	(2020.3.17)	91	(5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
103	松山 2-1-4 の一部・ 1-5	(2020.6.10 ～ 12)	462	(137)	共同住宅	溝、須恵器等		市内 26
104	池上 356-1、357、 360 の各一部	(2020.9.28・29)	1,586.87	(64.75)	宅地造成	土坑、溝、須恵器片		市内 26
	池上 355、356-1、 357、360、361 の各一部	(2020.9.28・29)	2,944.13	(4)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 26
105	仲 2-1-8	(2020.10.22・12.25)	257.87	(77.65)	共同住宅	遺構なし、陶磁器		市内 26



第34図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第35図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

II 松山遺跡第103地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2020年6月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年6月10～12日に試掘調査を実施した。

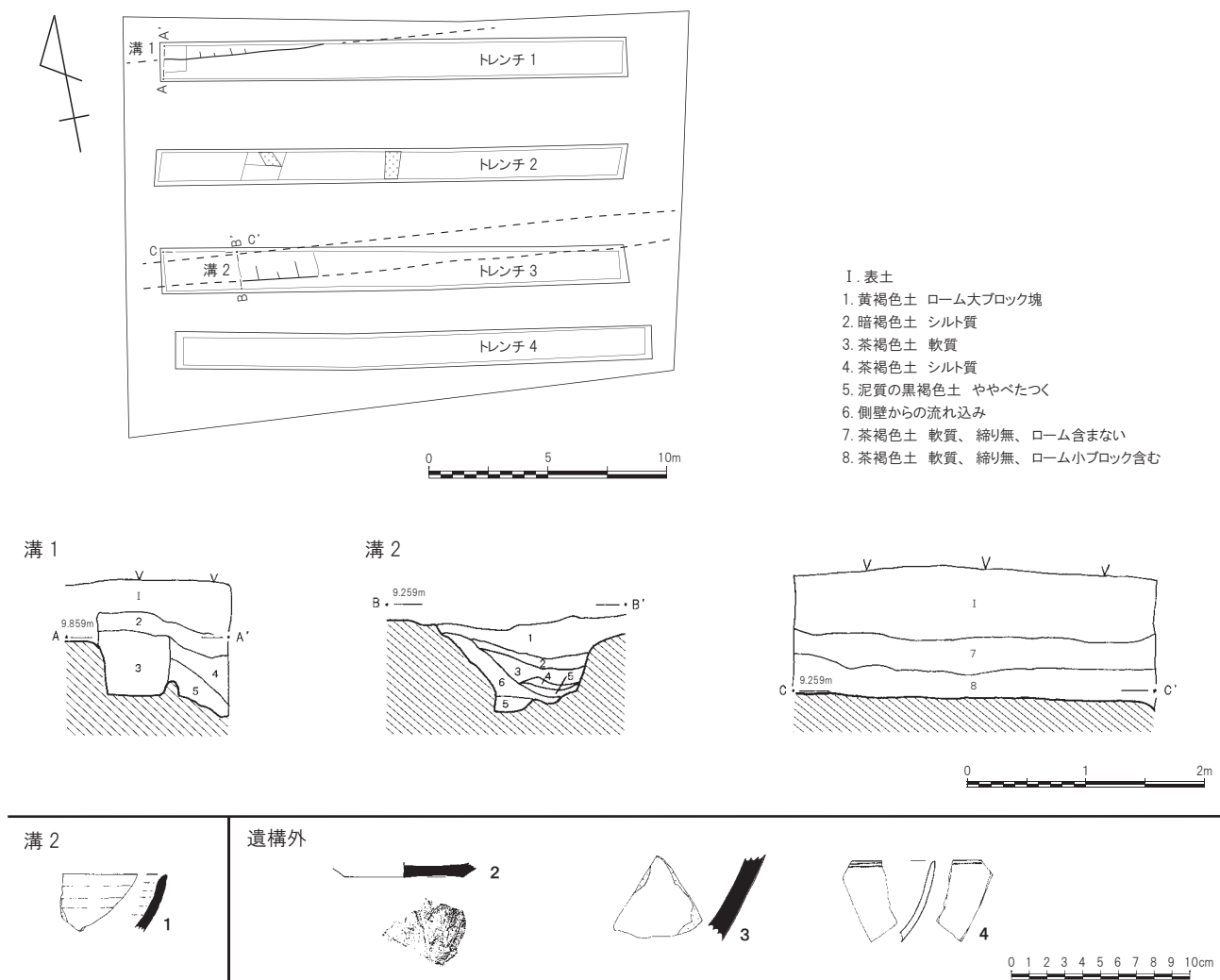
試掘調査は幅約1.5～2mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30～90cmである。

調査の結果、時期不明の溝2条を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 溝

溝は調査区北側、トレンチ1と調査区中央のトレンチ3で確認した。いずれも東西方向に走行する。溝1はそのほとんどが調査区外になるため、詳細は不明である。溝2は上幅130cm、下幅65cm、深さ70cmを測り、断面形態は台形を呈するが、底面は平滑ではなく凹凸がある。土層の観察より滞水していたものと考えられる。溝の高低差をみると東側が高いため、東から西に向かって水が流れていたものと推測される。



第36図 松山遺跡第103地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)、出土遺物(1/4)

②出土遺物

遺物の詳細については第 36 図及び第 26 表に掲載した。溝から須恵器片が 1 点出土したが、溝の時期を決定するものではない。

第 26 表 松山遺跡第 103 地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 36 図 -1	溝 2	須恵器坏	—	—	—	—	轆轤使用、胎土に海綿骨針含む、南比企産	8 世紀中頃
第 36 図 -2	遺構外	須恵器坏	—	6.6	—	—	轆轤使用、底部全面回転ヘラケズリ、胎土に海綿骨針含む、南比企産	8 世紀中頃
第 36 図 -3		須恵器甕	—	—	—	—	外面の叩き目・内面の亜当具痕はナゲ消、胎土に海綿骨針含む、南比企産	奈良・平安
第 36 図 -4		磁器碗	—	—	—	—	轆轤成形、失透色の釉、太白手、瀬戸美濃産	幕末

Ⅲ 松山遺跡第 104 地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より 2020 年 9 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 9 月 28・29 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 2m のトレンチ 1 本と 1.5 m 四方のトレンチ 2 ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60～90 cm である。

調査の結果、溝 1 条を確認したが保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①溝

調査区中央に入れたトレンチ 1 の北側で確認した。走行方向は N-52°-E で、上幅 200 cm、下幅 170 cm、深さ 45 cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、底面は比較的凹凸がある。走行方向や断面形態、覆土の特徴等から本地点の北側に位置する第 99 地点で検出した堀状遺構と同様である可能性が高い。

②出土遺物

遺物は遺構外から出土した須恵器系片口鉢の口縁部 1 点である。13 世紀後半～14 世紀前半の魚住窯産で、帯状の縁帯を持ち、縁帯には弱い降灰が見られる。割れ口部を砥石として転用している。



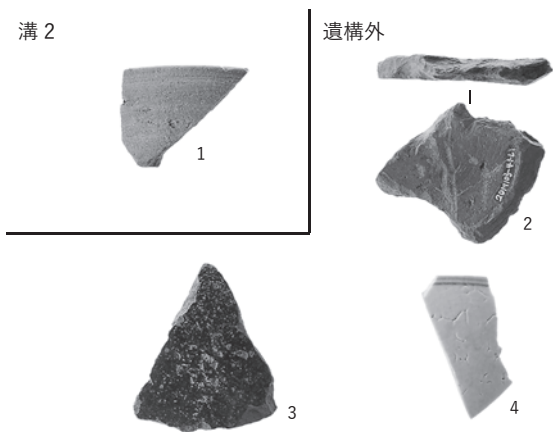
松山遺跡第 103 地点トレンチ 1



松山遺跡第 103 地点トレンチ 3 溝



松山遺跡第 103 地点調査風景



松山遺跡第 103 地点出土遺物



松山遺跡第 104 地点トレンチ 1



松山遺跡第 104 地点トレンチ 1

遺構外



松山遺跡第 104 地点出土遺物